

# 小学校の粘土造形を念頭におく年長児の土粘土による粘土遊び

—鹿児島市内の幼稚園における実践研究—

A Research on Playing with Soil Clay of Older Child keep in mind Clay Modeling of Elementary School  
—A Practice at a Kindergarten in Kagoshima City—

井上周一郎\*・草野汐理\*\*  
Shuichiro Inoue, Shiori Kusano

\*鹿児島女子短期大学      \*\*鹿児島女子短期大学附属なでしこ幼稚園

抄録：本研究では、年長児の「土粘土による粘土遊び」の在り方を深めるために、鹿児島市内の幼稚園で実践研究を行った。ここでは全3回の段階的な課題製作を設け、小学校の粘土造形を念頭に基礎の習得を目指した。その結果、幼児は自然素材である土粘土の触感や可塑性を味わいつつ、作り方や道具類の使用に慣れることで、粘土遊びの幅を広げることができた。また、様々な課題や教師との関わりを通して、感性や創造性を養えたことから、生き生きとした共同製作が行えるようになった。これらの成果により、幼児の身体的発達と精神的発達を実感し、児童期の粘土造形につながる経験となったことを確認した。そして、アクティブ・ラーニングの視点で、環境設定や支援についても考察を深められたことで、この取り組みの具体的な在り方が明らかになった。

**Key words：**土粘土 粘土遊び 粘土造形 年長児

## 1. はじめに

平成28年度、筆者らは「幼児期の土粘土による粘土遊び—鹿児島市内の幼稚園における実践研究—」1)と題し、鹿児島女子短期大学の附属なでしこ幼稚園で実践研究を行った。年少少組(2歳児)から年長組までの4クラスで取り組んだところ、各年齢児は予想以上に土粘土と関わりながら、思い思いに粘土遊びを楽しんだ。とりわけ、年長児は塊を組み合わせた大きな作品づくりや、友達とコミュニケーションをとりながらの共同製作、トランポリンのように飛び跳ねて足裏で感触を味わうなど、目を見張るほどのダイナミックな活動であった。一部の園児は、粘土遊びに苦手を抱いていたようだが、活動後は前向きな姿勢に変化し、明らかな成果を感じとれた。年長組ともなると、油粘土による粘土遊びを繰り返しており、その面白さと合わせて、臭いや汚れが気になってくる頃であろう。そのような時期に、自然素材である土粘土の魅力を全身で感じながら、主体的な粘土遊びを行うことは、人間形成かつ教育的観点においても意義があることを認識した。

そこで今回は、年長児の「土粘土による粘土遊び」を更に深めるために、小学校の粘土造形を念頭におく活動の在り方を、前回から引き続いて附属なでしこ幼稚園で実践研究する。図画工作科の学習内容を多少含めながら、就学前に身につけておくことが望ましい事柄を取り上げ、全3回の活動に入れ込む。限られた回数ではあるが、このような課題製作を通して、幼児の感性や創造性を養いつつ児童期の粘土造形に向かうための基礎を形成したいと考える。

ここでは教師から一方的に教えるのではなく、子どもたちが自ら積極的に素材と関わり、他者とコミュニケーションを図るなかで自分らしい表現を模索できるようなアクティブ・ラーニングの視点を大切にしていく。以上の内容を踏まえ、適切な環境づくりや支援などについても、具体的に考察することとする。

## 2. 年長児の「土粘土による粘土遊び」の実践

### 1) 「土粘土による粘土遊び」の方法

本実践は、安全なフリースペースに大型のシルバースシート(サイズ：縦7.1×横7.1m 厚み：#3000)を広げ、そこに土

粘土を用意して粘土遊びを行う。事前準備として、粘土は幼児の小さな手でもつくりやすい状態にするために、中川2)が述べている「粘土を耳たぶの固さに練りあげてから子どもに与えてほしい」を念頭にしっかりと水分調整して練り上げる。また、粘土の量は、前回1)の際に多少の物足りなさを感じたので、1キログラム増の一人当たりを4キログラムで試みることにする。そのため、年長組は男女合わせて55名がいることから、合計220キログラムの大量の粘土を配置することになる。このような環境設定は、子どもたちが全身で粘土遊びに取り組めるように意図したことで、全ての回で同様とする。

この度の実践は、共同研究者である草野先生が担当クラスで実施するものの、代表研究者の井上も適宜参加する。論文執筆者でもある井上は、粘土造形に関する豊富な経験を有することから、土粘土の魅力や扱い方、粘土遊びに関する作り方を直に伝えやすいと予想する。有意義な人的環境となるよう、様子を見ながら適切に支援していくこととする。

## 2) 各回の指導案

指導案作成については、筆者らと幼稚園の関係者で方向性を定め、担任の草野先生に依頼した。下記に3回分を記載するが、1と2を含む前半部分は同様であることから、2回目以降は省略する。

### ◆1回目の指導案

平成28年6月3日(金)

鹿児島女子短期大学附属なでしこ幼稚園

年長組2クラス

4年保育	男児	4名	女児	4名
3年保育	男児	23名	女児	18名
2年保育	男児	1名	女児	5名
1年保育	男児	0名	女児	0名
				計 55名

#### 1 予想される幼児の活動

土粘土で思いっきり遊ぼう。

#### 2 幼児の姿

##### <既習経験>

- 年長組の幼児は、これまでに油粘土や紙粘土を使って遊んできた。油粘土では、団子や蛇などの他に、ケーキやお寿司などの食べ物を作ったり、うさぎやくまなどの動物を作ったり、イメージするものを形にしながら楽しんできた。

紙粘土では、母の日の行事で母親と一緒に小物入れを作ったり、誕生会のケーキ作りでケーキに乗せるフルーツやクッキーなどの飾りを作ったりしてきた。紙粘土は、時間がたてば固まることや、着色することができることを知り、油粘土とは異なる面白さを味わうことができた。

また、年長組の幼児のほとんどが、昨年度、土粘土での遊びを一度経験している。初めて見る土粘土に興味を持ち、油粘土とは異なる感触やにおいなどに気付きながら、思い思いに遊ぶことができていた。

このように、様々な種類の粘土で遊ぶ中で、自分のイメージするものを形にする楽しさを味わっているところである。

##### <配慮を要する幼児>

- 年長組の幼児の中には、汚れることに抵抗のある幼児がいる。幼児の様子を見ながら遊びに誘ったり、教師と一緒に遊んだりして幼児が汚れることを気にせずに遊ぶことが出来るようにしている。また、なかなかイメージが沸かず、作り始めるのに時間を要したり、苦手意識から遊びが控えめになってしまう幼児もいる。少しずつ自信を持って楽しさを味わうことができるように、たくさん褒めたり、幼児がイメージを持ちやすいように教師も一緒に作ったりしている。

### 3 本時

#### (1) ねらい

- 全身で土粘土の塊で遊びながら、様々な感触を味わい、形を変える面白さを知る。

(表現2-(5))

- ・ 粘土の塊の上を音楽に合わせて、歩いたり、走ったりして楽しむ。
- ・ 粘土の大きな塊で団子づくりを楽しむ。
- ・ 粘土の大きな塊をひも状に伸ばすことを楽しむ。

#### (2) 本時の展開

環境の構成	時間	予想される幼児の活動	教師の援助
<p>&lt;リズム室&gt;</p> <p>エ</p> <p>ウ</p> <p>ア</p> <p>&lt;準備物&gt;</p> <p>ア 土粘土 (220kg)</p> <p>イ シルバーシート</p> <p>ウ たらい</p> <p>エ ピアノ</p> <p>○ タオル</p> <p>○ 足ふきマット</p> <p>○ 救急用具</p> <p>○ 保冷剤</p>	<p>10:10</p> <p>10:20</p>	<p>○ 汚れても良い服に着替える。</p> <p>○ 先生の周りに集まり、今日の活動について話を聞く。</p> <p>○ リズム室に移動する。</p> <p>◎ 土粘土で遊ぼう。</p> <p>○ 設定している土粘土を見る。</p> <p>○ 粘土の塊で大きな輪を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 好きな塊を持つ。</li> <li>・ 友達の粘土の塊とつなげるようにおく。</li> </ul> <p>○ 粘土の輪で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗ったり降りたりする。</li> <li>・ 歩く。</li> <li>・ ジャンプする。</li> <li>・ 音楽に合わせて動く。(歩く、走る、ジャンプ、動物になる。など)</li> </ul> <p>※ 一列で一方向に進む。</p> <p>[楽曲名]</p> <p>1 曲目：様々なテンポで自由に演奏</p> <p>2 曲目：おつかいありさん</p> <p>3 曲目：かえるの合唱</p> <p>4 曲目：かたつむり</p> <p>5 曲目：ぞうさん</p> <p>○ 輪の外側に座る。</p> <p>○ 粘土の塊を床からはがす。</p> <p>○ 粘土の塊を丸めて頭上から落としたりして、大きな団子を作る。</p>	<p>○ 全身を使って伸び伸びと遊ぶ事ができるように汚れても良い服に着替える。</p> <p>○ 話し方や話す際の表情などを工夫し、これからの活動への期待を高める事ができるようにする。</p> <p>○ 幼児が安全に遊ぶ事ができるように、床にシルバーシートを敷いたり、粘土の水分量などを考慮したりする。</p> <p>○ リズム室に設定してある粘土を見てこれから始まる活動への期待を十分に高められるように、教師も喜びに共感する。</p> <p>○ 粘土の様々なかたちや重さをはじめ、土粘土の感触や匂いなどを感じることができるよう、幼児の気付きを周りの幼児にも紹介する。</p> <p>○ 粘土の塊を輪のようにつなげて置く面白さを味わうことができるように、ワクワクした気持ちに共感する。</p> <p>○ 粘土の輪の上を歩きながら、足での感触を楽しむことができるように、教師も一緒に歩き、気持ちよさに共感する。</p> <p>○ ジャンプをしたり、音楽に合わせて動いたりする中で、新たな粘土の面白さに気付けるように、幼児の声を聞き、周りにも紹介する。</p> <p>○ 歩いたり、走ったりすることで粘土の塊の形が変わった面白さや、床からはがす楽しさを味わうことができるように、教師が率先して楽しむ姿を見せる。</p> <p>○ 普段の環境との違いなどから、粘土に触れる事へ抵抗を示す幼児へは、少しでも触れる事ができるように、幼児の様子を見守りながら誘い掛けたり、教師も一緒になって粘土に触れたりする。</p> <p>○ 大きな塊を団子状にする難しさや、できた喜びを十分に味わうことができるように、褒めたり、励ましたりする。</p> <p>○ 丸めた粘土を上から落とし、形が変わる面白さを味わったり、その形を何かに見立てたりする面白さを味わうことができるように、幼児の気付きを認め、褒める。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 完成した団子をたたきつけたり、伸ばすことで長い蛇を作る。</li> <li>・ 友達の蛇とつなげる。</li> <li>○ 教師の話を聞く。</li> <li>・ 活動を振り返る。</li> <li>○ 粘土を片付ける。</li> <li>○ シャワー室へ移動する。</li> <li>・ 手や足を洗う。</li> <li>○ 保育室に戻り着替える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 粘土を長く伸ばす面白さや満足感を味わえるように、教師も一緒に競争したり、長さを比べたりする。</li> <li>○ たくさん遊んだ達成感を味わえるように、片付けも幼児と一緒にやる。</li> <li>○ 活動を振り返る際は、満足感を十分に味わう事ができるように、幼児から油粘土との違いや、どのような物を作ったかななどを引き出しながら話をする。</li> </ul>
--	--	---	---

## ◆2回目の指導案

平成28年6月24日 (金)

### 3 本時

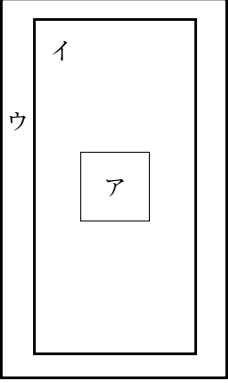
#### (1) ねらい

- 全身で土粘土の塊で遊びながら、“ひねりだし” “くっつけ” の面白さを味わう。

(表現2 - (5))

- ・ 粘土の卵形から、動物などをイメージして楽しむ。
- ・ “ひねりだし” や “くっつけ” を知り、動物などをつくって楽しむ。
- ・ 色々な道具類の使い方を知る。

#### (2) 本時の展開

環境の構成	時間	予想される幼児の活動	教師の援助
<p>&lt;リズム室&gt;</p>  <p>&lt;準備物&gt;            ア 土粘土 (220kg)            イ シルバーシート            ウ たらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ タオル</li> <li>○ 足ふきマット</li> <li>○ 救急用具</li> <li>○ 保冷剤</li> </ul>	<p>10:00</p> <p>10:10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 汚れても良い服に着替える。</li> <li>○ 先生の周りに集まり、今日の活動について話を聞く。</li> <li>○ リズム室に移動する。</li> <li>◎ 土粘土で遊ぶ。</li> <li>○ 井上先生に挨拶をする。</li> <li>○ 設定している土粘土 (卵型) を見る。</li> <li>○ 井上先生の話を聞く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 卵形の粘土から、“ひねりだし” をする。</li> <li>・ 粘土を丸めて卵形の塊をつくる。</li> <li>・ 指や手の平で塊を握り、粘土をひねり出す。</li> <li>・ ひねりだした粘土を見立てて遊ぶ。</li> <li>・ 粘土の塊を“くっつけ”て遊ぶ。</li> </ul> </div> <p>※ 途中から道具を出す。 (めん棒・へら・かき出しべら・切り針金)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全身を使って伸び伸びと遊ぶ事ができるように汚れても良い服に着替える。</li> <li>○ 話し方や話す際の表情などを工夫し、これからの活動への期待を高める事ができるようにする。</li> <li>○ 幼児が安全に遊ぶ事ができるように、床にシルバーシートを敷いたり、粘土の水分量などを考慮したりする。</li> <li>○ これから始まる活動への期待を十分に高めることができるように、前回と異なる粘土の状態 (卵形) に気付かせる。</li> <li>○ 卵形の粘土から、ひねり出しをして動物をつくり、喜ぶ幼児の思いに共感したりする。</li> <li>○ 様々な卵形が粘土でつくれるよう、一緒につくったりする。</li> <li>○ ひねりだしをして形が変わる面白さや、ひねりだしをした際の感触などを楽しむことができるように、幼児の声を引き出したり、楽しさを共感したりする。</li> <li>○ うまくひねりだしができない幼児は、幼児のペースで楽しめるように、見守ったり、必要に応じて教師が手を添え一緒に行ったりする。</li> <li>○ 卵形からイメージを膨らませることができるよう、ひねりだしをした粘土が何に見えるか問いかけたり、幼児の発見を友達に紹介したりする。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 粘土を片付ける。</li> <li>○ 教師の話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を振り返る。</li> </ul> </li> <li>○ 井上先生にお礼の挨拶をする。</li> <li>○ シャワー室へ移動する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手や足を洗う。</li> </ul> </li> <li>○ 保育室に戻り着替える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 粘土をくっつけることで、イメージが広がったり、大きなものがつくれることに気付かせ、一緒につくったりする。</li> <li>○ 粘土遊びの新たな遊び方を知り、さらに粘土遊びの楽しさを十分に味わうことができるように、幼児一人一人の遊びを認め、一人一人の遊びに合わせて言葉を掛ける。</li> <li>○ 幼児の遊びの幅がさらに広がり、楽しく遊ぶことができるように、遊びのタイミングを見て道具を出す。</li> <li>○ 道具の取り扱いなどが起こった際は、友達と一緒に道具を仲良く使うことができるように、どのようにしたら良いか幼児と一緒に考えたり、気付かせられるように言葉を掛けたりする。</li> <li>○ たくさん遊んだ達成感を味わえるように、片付けも幼児と一緒にやる。また、さらに意欲的に片付けられるように、ヘラを使用する。</li> <li>○ 活動を振り返る際は、“ひねりだし”や“くっつけ”の面白さ、新たな発見を全員で共感できるように、幼児の意見を十分に引き出し、認めていく。</li> </ul>
--	--	---	--

### ◆3回目の指導案

平成28年6月30日（木）

#### 3 本時

##### (1) ねらい

- グループの友達と協力して、共通のイメージを膨らませながら粘土遊びを楽しむ。

(表現2 - (5))

- ・ “ひねりだし” “くっつけ” により、テーマに合った粘土遊びを楽しむ。
- ・ 友達とコミュニケーションをとりながら、全身での粘土遊びを楽しむ。
- ・ 色々な道具類を使って、つくることを楽しむ。

※ 事前に各クラスを4グループずつに分け、粘土でつくるもののテーマを話し合っておく。

##### (2) 本時の展開

環境の構成	時間	予想される幼児の活動	教師の援助
<p>&lt;リズム室&gt;</p>	<p>10:00</p> <p>10:10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 汚れても良い服に着替える。</li> <li>○ 先生の周りに集まり、今日の活動について話を聞く。</li> <li>○ リズム室に移動する。</li> <li>◎ 土粘土で遊ぼう。</li> <li>○ 井上先生に挨拶をする。</li> <li>○ 先生の話を聞く。</li> <li>○ テーマに合わせて粘土遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全身を使って伸び伸びと遊ぶ事ができるように汚れても良い服に着替える。</li> <li>○ これからの活動への期待を高める事ができるように、話し方や話す際の表情などを工夫する。</li> <li>○ 幼児が安全に遊ぶ事ができるように、床にシルバーシートを敷いたり、粘土の柔らかさや水分量などを考慮する。</li> <li>○ これから始まる活動への期待を十分に高めることができるように、これまでと異なる箱形の粘土の塊に気付いた子どもたちの思いを大切にする。</li> </ul>

<p>&lt;準備物&gt;            ア 土粘土            (箱形の塊)            イ シルバーシート            ウ 道具類            [・ めん棒            ・ へら            ・ かき出しべら            ・ 切り針金            エ たらい            ○ タオル            ○ 足ふきマット            ○ 救急用具            ○ 保冷剤            オ 予備の土粘土            カ 衝立</p>	<p>(ふじ組)            1グループ：動物園            2グループ：恐竜公園            3グループ：水族館            4グループ：なでしこ幼稚園            (すみれ組)            Aグループ：動物園            Bグループ：サッカーショップ            Cグループ：遊園地            Dグループ：ディズニーランド            ○さらに粘土を使いたい場合は、グループごとに予備の粘土を運ぶ。            ○ 使用した道具や、使用していない粘土を片付ける。            ○ グループごとに発表をする。            ○ 各グループの作品を見て回る。            ○ 教師の話聞く。            ・ 活動を振り返る。            ○ 粘土を片付ける。            ○ 井上先生にお礼の挨拶をする。            ○ シャワー室へ移動する。            ・ 手や足を洗う。            ○ 保育室に戻り着替える。</p>	<p>○ グループのテーマに沿って楽しく製作を行えるように、少しずつイメージが形になっていく面白さに共感する。            ○ グループの友達と一緒に協力して作品を作ることができるように応援をする。            ○ なかなかイメージが持てない幼児へは、同じグループの幼児の作品に気付かせたり、教師も手伝いながら一緒に作ったりする。            ○ 大きい粘土の塊に困っている幼児へは、教師が適切な大きさに切って渡す。            ○ さらに意欲的に取り組めるように、道具類の面白さを伝えたり、伸び伸びと作れていることを褒めたり、工夫している幼児の姿を紹介したりする。            ○ イメージの違いからトラブルが起こった際は、気持ちよく遊びに戻れるように、両者の思いを受け止め、必要に応じて教師が助言を行う。            ○ グループごとの発表では、自信をもって発表することができるように幼児の頑張りを認めたり、必要に応じて教師も一緒に発表したりする。            ○ 他のグループの作品に目を向け、新たな発見や今後への意欲が高められるように、それぞれのグループの作品に合わせた言葉を掛ける。            ○ 片付けの際も、グループの友達と協力して行えるように、グループごとに言葉を掛けたり、応援したりする。            ○ これまでの土粘土遊びでの気付きや、楽しかった満足感を全員で共感できるように、幼児に発表してもらいながら振り返りを行う。</p>
--	--	---

### 3. 結果および考察

3回の実践結果を踏まえ、これまでの年長児の姿を把握している主任などの主な意見を以下に列記する。○は良い点で、●は反省や改善点である。その後、筆者らが考察をまとめて活動の在り方を明らかにしていく。

#### 1) 1回目の実践について

- 1 粘土の輪の上で動きながら、全身で粘土遊びを楽しんでいた。
- 2 色々な楽曲に合わせて、動物になりきる姿が見られた。
- 3 粘土の塊を叩き付けた後、はがすのが難しかしそうだったが、それなりに楽しんでた。
- 4 全体的に粘土の感触や可塑性、匂いなどに親しんでいた。
- 1 シート内に作った粘土の輪を2クラスの人数で歩くには狭すぎた。1クラスの人数で良かったかもしれない。
- 2 粘土の塊を扱いきれず、大きな団子やひもをつくるのが難しそうだった。
- 3 一部の年長児は、自由な粘土遊びをしたがった。

多くの子どもは、昨年度の活動を覚えていて、今回の取り組みを心待ちにしていたようだ。実際に始めると、粘土の大き

な輪に2クラスが入ることは窮屈だったことから、急遽1クラスで歩いたり走ったりして楽しんだ(●-1 図1)。もう一方のクラスには、シートの内側に座って様子を見るよう指示したが、粘土に吸い寄せられるように近づいてしまい、安全面での課題となった。今後の解決策としては、シートを更に広げるよりも、1クラス程度で行うことが実践と片付けの両面で適切だと考える。

全員の体が温まってきたのを見計らい、担任がピアノでテンポの異なる曲を弾き、粘土の上での行進を促したところ、ジグザグに歩いたりジャンプしたりと、音に合わせて動きながら足裏で粘土を感じていたようであった。続けて、馴染みのある曲が流れてくると、動物になりきって四つん這いになるなど、全身でアクティブに動き回っていた(○-2 図2)。音楽に合わせての粘土遊びは、予想以上に子どもたちの気持ちを盛り上げ、感性を養いながら素材に触れられる活動となった。

後半からは、シート上の粘土を用いてダイナミックな“団子づくり”と“ひもづくり”を設定していたが、思っていたよりも粘土がシートにくっついてしまい、取りにくい状況になってしまった。しばらく様子を見守っていたところ、子どもたちは粘土に力一杯で立ち向かい、徐々に塊をつかみ取っていた。ある程度集めた粘土はシートに叩き付けてから、手で転がしたり体重をかけるようにお腹で押したりと、難しいながらも様々に試行錯誤する様子も見られた((●-2 ○-3 図3.4.5)。これらの2つの粘土遊びは、幼児期の特徴の一つであるが、ここでは大きな塊での扱いに慣れることで、今後の意欲的な作品づくりにつながられればと考えていた。結局、期待通りにはいかなかったものの、素材の抵抗感に全力で立ち向かう良い機会になったことは間違いない。

一部の子どもたちからは、色々なものを自由につくりたかった、という声が挙がった(●-3)。前回1)の自由な粘土遊びを思い出しでの発言と推測されるが、一年ぶりに「土粘土による粘土遊び」の感覚を思い出すには、ここで取り組んだように、素材と思いっきり触れる場から始めることが大切だと考える。以上のような理由から、ねらいが若干外れた部分もあったが、一回目としては意味のあるスタートだったと考える。



図1 粘土の上で歩いたり走ったりする様子



図2 音楽に合わせて蛙になりきる姿



図3 粘土の塊を叩き付ける姿



図4 協力して大きな団子をつくる様子



図5 お腹でひも状に伸ばそうとする姿

## 2) 2回目の実践について

- 5 導入部分で、教師が“ひねりだし”という手法を用い、粘土の卵から動物などをつくりだしたことが、印象深かったようだ。
- 6 “ひねりだし”の実演後、年長児は教師の手つきを真似ながら、同様に作り出そうとしていた。卵形から動物などをつくりだすことは、イメージしやすかったようだ。
- 7 “ひねりだし”と“くっつけ”という手法を習得したことで、粘土遊びの幅が広がり、色々なものをつくれるようになった。
- 4 途中からの道具類はないほうが良かったかもしれない。その使用を楽しむ方に偏ってしまった。

2回目の実践では、導入時の教師の実演が効果的だったようだ。初めて見る“ひねりだし”という手法で、卵形の粘土から恐竜などが出来上がったので、全員がきらきらした眼差しだった(○-5.6 図6.7.8.9)。手つきを真似ながら、形にしようとする姿は真剣そのもので、創造を豊かにしていたと思われる(図10.11)。途中、もう一つの手方の“くっつけ”も実演して理解を促したところ、更に生き生きとした形が表れた(○-7 図12.13.14)。見学に訪れていた保護者からは、年長児がここまでつくれるとは驚いた、と感想があったほど、各自はイメージを膨らませながら自分らしい表現を楽しんでいた。

全体の様子が落ち着いたのを見計らい、様々な道具類の使い方を説明した。粘土遊びの広がりにつなげようと意図したことであったが、結局は残念な状態になってしまった。それまでの過程で、温まっていたイメージや試行錯誤の跡などが瞬く間に消えてしまい、道具の使用を楽しむことだけに終止してしまった(●-4 図15.16.17)。前半まで、かなり良い感じで進んでいただけに悔いは残るが、3回目の共同製作を見据え、やむを得ずに試行したので3回目への糧と捉えたい。



図6 導入時、教師が卵形をつくる場面



図7 導入時、教師が卵形から動物などをつくる場面





図8 教師が卵形から、つくった白鳥



図9 教師が卵形からつくった亀と恐竜など



図10 粘土の塊で大きな卵形をつくる姿



図11 卵の音を聞き入る様子



図12 “くっつけ”で大きな動物をつくる姿



図13 女児がつくったペンギン



図14 女児がつくった羽をひろげた鳥



図15 めん棒で粘土を伸ばして楽しむ姿



図16 切り針金で粘土を切って楽しむ姿



図17 かき出しべらで粘土を削って楽しむ姿

### 3) 3回目の実践について

- 8 大半が、周りとコミュニケーションを取りながら、テーマに沿ったものをつくれた気がする。
- 9 各グループで、役割分担ができていた。
- 10 初めての共同製作であったが、年長児にとって良い経験になったと思う。
- 11 3回続けての活動だったので、最後に素晴らしい作品が出来上がったと感じる。
- 5 事前に各々の得意不得意を踏まえ、バランスを考えてグループ分けすると、製作の出来上がりが変わったかもしれない。

まとめとなる3回目、導入時の子どもたちは、事前準備した箱形の粘土を不思議そうに眺めていた(図18)。グループで話し合いをしてから粘土遊びを始めたところ、箱形の大きな塊と形状に触発されるように、各自が手を動かし始めた(図19)。前半は、全体的に周囲の様子を気にするような感じがあったものの、徐々にいきおいが出てきて、学習した“ひねりだし”や“くっつけ”の手法で、意欲的な粘土遊びが展開された(図20,21)。気がかりだった道具類の使用についても、2回目ですでに慣れたようで、落ち着いて使いこなせていたので安心して見守ることができた。(図22)。全体を通して、友達との協力や役割分担を自然にこなせており、粘土での初めての共同製作とは思えないほど、たくさんの思いが詰まった素敵な作品が出来上がった(○-8,9,10図23,24,25)。残念ながら、一部のグループでは思うような形にならなかったようであったが、そこには様々な試行錯誤の跡が見て取れ、今後につながる経験になったと感じる。この点については、事前のグループ分けに配慮することで、改善できるのではないかと考える(●-5)。

振り返りの場面においては、子どもたちから「大きな作品がつくれてびっくりした」「みんなで粘土遊びができて楽しかった」「壊すのがもったいない。僕のコレクションに入れたいな」などの声が聞かれた。ここでの結果は、2回の粘土遊びの経験を積み重ねたからであって、3回目だけの成果ではない(○-11)。年長児の発達段階や実態に沿い、表現欲求を満たす適切な活動を継続することの大切さを改めて実感した。



図18 導入時に箱形の粘土を見て不思議がる様子



図19 粘土を囲んで話し合う様子



図20 “ひねりだし”で意欲的につくる姿



図21 “くっつけ”で遊園地のジェットコースターをつくる姿



図22 へらを上手く使って切る様子



図23 動物園をつくる様子



図24 下絵を見ながら水族館をつくる様子



図25 水族館の細部をつくる姿



図26 恐竜公園をつくる様子

#### 4. 結論

全3回の粘土遊びを通して、年長児の身体的発達と精神的発達を段階的に垣間見ることができた。其々の回で多少の課題が明らかになったものの、環境設定や支援などは概ね良く、小学校の粘土造形で目標となる“つくりだす”につながる経験ができたことは意義深い。今後、本実践を更に充実させるためには3回の活動内容を部分的に切り取り、年長児の学びや育ちを確認しながら、時間をかけて丁寧に進める観点が必要になってくると考える。

#### 謝辞

本研究にあたり、ご協力していただいた附属なでしこ幼稚園の園長と関係者には心より感謝申し上げます。

#### 註

- 1) 井上周一郎「粘土の造形表現活動に関する考察－短期大学生に対する実態調査を通して－」  
鹿児島女子短期大学紀要第49号
- 2) 中川織江「粘土遊びの心理学」風間書房2005、p82～83、参照

#### 参考・引用文献

- 1) 中川織江「粘土遊びの心理学」風間書房2005
- 2) 小串里子「みんなのアートワークショップ」株式会社武蔵野美術大学出版局2011
- 3) 宮脇理監修「新版・美術科教育の基礎知識」建帛社 1991

(平成29年1月18日 受理)